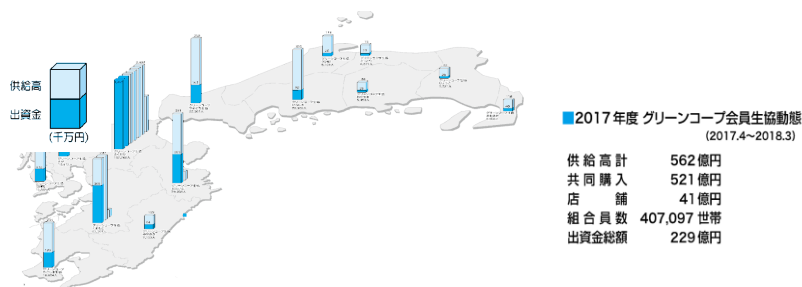


家計改善支援の出発点と 支援を支える背景について

グリーンコープ

1. グリーンコープの紹介

(1)「自然と人」「人と人」「女と男」「南と北」の共生を事業理念に掲げて活動する14のグリーンコープ生協とグリーンコープ連合会の共同体



(2)1988年結成からグリーンコープが目指してきたこと

- ① みんなが豊かに生活するために、連帯して何ができるかを考え、協同して何かを作り出し、共に生きていくことのできる地域社会を築き上げたいと願ってきた。
- ② 「連帯・協同・共生」という考え方を社会の基本に、人が助け合って生活できる地域社会をイメージしてきた。そのような地域を創り出すために、自分たちができることを取り組んできた。

2. グリーンコープの生活困窮者自立支援 ～ 始まりは多重債務問題

(1)スタートは1999(平成11)年にNPO 抱樸と出会い、2004(平成16)年に多重債務問題を知る。

- ① NPO 抱樸(ホームレス支援団体)から、ホームレスに至る一因として多重債務問題があることを学ぶ。
- ② 一方、組合員の0.5%が商品代金が滞りがちであり、自己破産、夜逃げなどで貸し倒れ計上をした人を含めて1%弱の組合員が経済的に困窮していることが分かる。(2005(平成17)年調査)
- ③ 生協で働く人のアンケートでは27.5%の人が消費者金融から借りた経験があり、うち6.8%が自分自身を「多重債務者と思ったことがある」と回答しており、幅広い市民の生活課題であることが分かる。(2005(平成17)年調査)
- ④ 多重債務やホームレス問題は自己責任だけでなく、社会的な問題であることを認識した。

3. 2006(平成18)年8月 生活再生相談室を開き 事業開始

(1)グリーンコープ生協ふくおか 平成18年8月事業開始

(2)生活再生事業に込めた願い

生活再生事業は4つの事業を一体的に展開

- ①金銭教育
- ②消費生活支援
- ③生活再生相談
- ④生活再生貸付

(3)生活再生事業の大きな特徴

生活再生貸付(セーフティネット貸付)が生活再生相談と一体的に運用されること。この「生活再生」という言葉に、私たちは借金苦の中で壊れてしまった

- ①人としての誇りと自信をとりもどす
- ②家族関係や人間関係を回復する
- ③経済生活そのものの再生

など、地域社会の中で相談者が生きていくために必要な生活の基盤を再生するお手伝いをしたいという願いを込めた。

4. 当初から相談の中心に家計相談をすえた理由

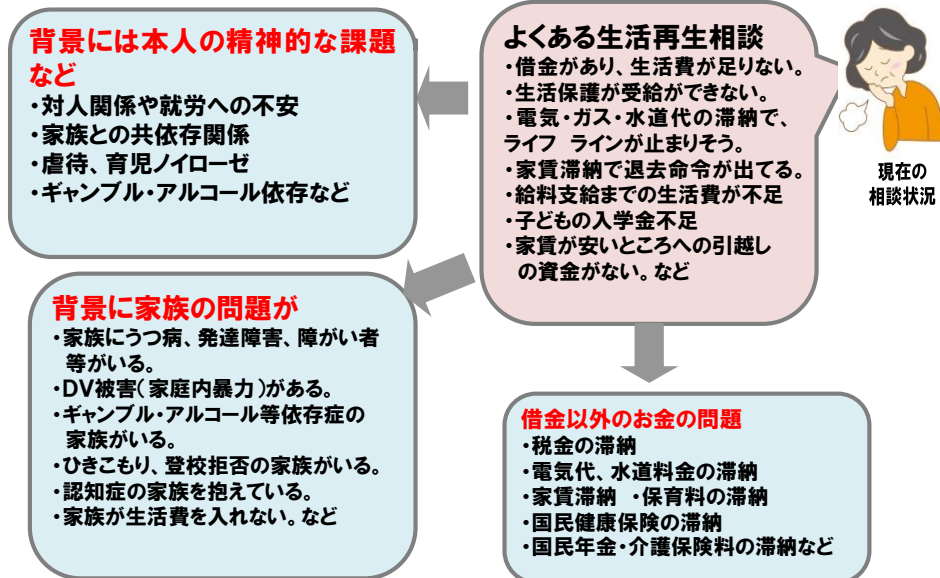
(1) 相談に来る人たちの様子から

- ①職や住居を失うばかりか、人間関係も壊れ、自尊心や将来への希望も失い、孤立感を深めている。⇒寄り添い、同行支援する。
- ②家計の現状がまったく分からず、借り入れ元金や利息の支払いができさえすれば、解決できると思い込んでいる。

(2) そのために取り組んだことが家計と将来の見える化

- ①お金の問題は債務整理を行うだけでは解決しないこと、滞納や今後の家計の見通しを付けることが重要なことを理解してもらう。
- ②借金の背景・原因を分析し、どこに課題が有るかを自ら気づくための支援に取り組む。そのために家計状況の把握は欠かせない。その人の価値観や生活はお金の使い方に現れるので、そこに気付いてもらえるようにする。
⇒家計の見える化(相談時家計表の作成)
- ③家計の現状が分かれば、生活を安定的に維持するためにどうすべきかの目標も本人の中で明確になっていくので、そこを支援する
- ④家計を改善するための目標に沿って、滞納金の支払い、貸付金の返済、貯蓄などを組み込んだ家計計画表(予算)。キャッシュフロー(資金繰り)を相談する。
- ⑤目標達成に向けて、実行していくために支援を継続し、生活の健全化を図り、貸し倒れが起きないようにする。

5. 相談を受け続ける中で見えてきたこと —多様で複合的な課題 継続的な支援が必要



6.生活再生事業開業から平成30年度までの 累計相談実績

	ふくおか	くまもと	おおいた	やまぐち (長崎)	かごしま	さが	合計
電話件数	25,973	10,242	1,764	1,969	1,158	195	41,383
家族を含む面談件数	14,457	6,984	1,052	1,166	740	133	24,595
面談だけで解決	1,742	827	148	145	109	30	3,018
他団体紹介	655	1,159	59	112	53	10	2,055
法律専門家の相談	4,531	2,359	349	371	117	39	7,777
家族話し合い継続中	5,104	2,284	365	418	366	46	8,596
未解決で終了	2,425	355	96	120	95	8	3,115
面談だけで解決	12.0%	11.8%	14.6%	12.4%	14.7%	22.6%	26.6%
他団体紹介	4.5%	16.6%	5.8%	9.6%	7.2%	7.5%	10.9%
法律専門家の相談	31.3%	33.8%	34.3%	31.8%	15.8%	29.3%	31.7%
家族話し合い継続中	35.3%	32.7%	35.9%	35.8%	49.5%	34.6%	20.3%
(小計)	83.2%	94.9%	90.6%	89.7%	87.2%	94.0%	75.0%
未解決で終了	16.8%	5.1%	9.4%	10.3%	12.8%	6.0%	25.0%
貸付希望件数	9,392	4,006	648	709	544	70	15,416
貸付実行件数	1,672	778	224	151	114	2	2,943
貸付金額(万円)	90,611	41,350	9,524	9,060	5,905	99	156,567
貸付単価(万円)	54	52	43	60	52	50	53
貸付残高(万円)	9,365	9,341	1,878	1,982	970	81	23,632

電話件数 41,383件
 面談件数 24,158件
 貸付件数 2,943件
 貸付総額 15億6567万円
 貸付残高 2億3632万円

<開業日>
 グリーンコープ生協ふくおか 2006年8月21日
 グリーンコープ生協くまもと 2008年4月21日
 グリーンコープ生協おおいた 2008年8月21日
 グリーンコープ生協やまぐち 2008年9月22日
 グリーンコープ生協(長崎) 2009年11月2日
 グリーンコープ生協かごしま 2017年8月21日
 グリーンコープ生協さが 2017年10月2日

2009年かさじぞう基金の取り組みを開始

2009(平成21)年から、緊急な生活資金のために、5千円から1万円を即決で支援できる「かさじぞう基金」のカンパを募り対応している。

- ①これまでの基金拠出額は**835万円**。
- ②これまでに支援した金額は、**1,620万円、1,801件**
- ③返済率は**59.5%**



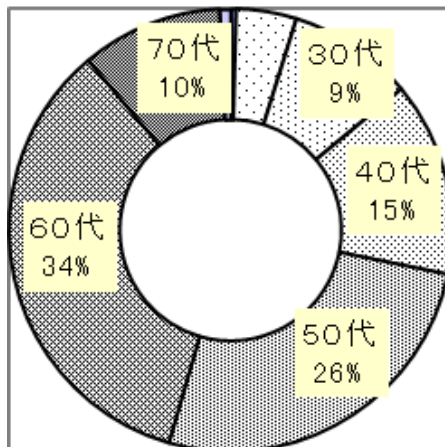
7. 2008(平成20)年秋のリーマンショック以降 は生活困窮者支援に本格的に取り組むことに

ホームレス自立支援施設抱撲館福岡

(NPO 抱撲との共同運営)



2010年5月抱撲館福岡開所
2019年4月までの入居者数1,144人



	人数	割合
10代	6	0.5%
20代	53	4.6%
30代	104	9.1%
40代	172	15.0%
50代	292	25.5%
60代	390	34.1%
70代	118	10.3%
80代	9	0.8%
計	1144	100%

同年抱樸館を支える会を設立

2019年5月末の賛助会員

- グリーンコープの共同購入組合員 8,924名
- グリーンコープの店舗組合員・一般の方 185名
- 企業賛助会員 105社

2018年度会費収入 23,680,250円

抱樸館福岡 料理練習会





抱樸館福岡パステル画・生け花教室



抱樸館福岡 園芸部 レクリエーション



卓球



映画上映会



カラオケ

15

抱樸館福岡 きずな祭



抱樸館福岡共同墓地へのお墓参り
現在20名の卒業生のお骨が納骨されている



2018年6月コーヒー焙煎焙煎工房
はこめめ屋OPEM



コーヒー焙煎焙煎工房 はこまめ屋 就労支援



ファイバーリサイクルの取り組み

- (1) 組合員や一般の方に送料を負担いただき、衣類などを無償で届けてもらう
- ↓
- (2) 就労訓練者による種類分けや整理等を行う
- ↓
- (3) 職員や組合員ボランティアによる二次仕分けを行う
- ↓
- (4) パキスタンに輸出する
- ↓
- (5) 国内で販売する

アル・カールアカデミーの事業グループに届け、古着市場で販売。学校の運営資金になる。

衣類のリユース運動に取組み、国内で販売して事業運営資金にあてる
(ゆうあいショップ、リサイクル市など)

ファイバーリサイクル 新しい雇用の創出

長期離職やひきこもり、心身に課題があったり生活保護受給者などさまざまな状況にある人達に、当事者の状況に合わせて、短い時間であったり、支援や配慮をすることで働くことができる環境を作り、身だしなみや健康管理に関する指導やコミュニケーション力をつけることを目的に就労訓練を行っています。

抱樸館福岡

就労する意思がある方が技能講習としてファイバーリサイクル事業、青果物仕分け、リパック作業、砂糖リパック作業の講習と実務体験を5日間の日程で受講する。



技能講習終了後、更に就労訓練に参加する意思のある人は、抱樸館、自立相談支援機関、ケースワーカー等との相談や面談を経て、訓練を開始する。



約6ヶ月間を目安として、ファイバーリサイクルセンターでの訓練作業を中心に、施設外（G C連合青果リパックセンター等）での就労訓練も行いながら、当事者の状況に合わせてステップアップしていき、一般就労につなげることを目標とする。

自立相談支援事務所など

相談者で、直ぐには一般就労に従事することが難しい方に、ファイバーリサイクルセンターの就労訓練について紹介する。



当事者にファイバーリサイクルセンターを見学してもらい、訓練内容の説明を行ったうえで、訓練参加の意思を確認する。



約6ヶ月間を目安として、ファイバーリサイクルセンターでの訓練作業を中心に、施設外（G C連合青果リパックセンター等）での就労訓練も行いながら、当事者の状況に合わせてステップアップしていき、一般就労につなげることを目標とする。

21

ファイバーリサイクル 就労訓練の様子

団体も含め、延べ62,448人の方から、総重量574トンの衣類などを届けていただきました。（2019年3月31日現在）

組合員や地域の方から送られてきた衣類などをアイテム毎に72種類に分類して仕分けします。

1日ひとりで約100kg～140kgを仕分けします。

送られてきた衣類の計量



一次仕分け





国内販売用商品作り

値札をつけ、ハンガーにかける



リサイクル市やゆう＊あいショップで販売
するためにコンテナに詰めて送り出す



パキスタンに輸出する衣類の梱包

50キロのボールを作る



支援される側から支援する側に変ることで 自立につながる

ムザヒル校長と就労訓練者との交流会



日頃の訓練作業がパキスタンの子どもたちの教育支援に繋がっていることは理解されていますが、ムザヒル校長から直接どのように役に立っているのかを聞き、感謝を伝えられたことで、パキスタンの子どもたちのためにしっかり役に立っていることを実感されていました。訓練者にとって、大きな自信に繋がっています。

25

就労支援（青果リパックセンター他）



グリーンコープの就労訓練の成果

2010年11月にファイバーリサイクルセンターで就労訓練を開始して以来
2019年3月31日現在で171人が訓練を受けました。

(現在12名が就労訓練継続中／うち抱樸館入居者5名)

◆抱樸館福岡入居者でファイバーリサイクルセンターの訓練を卒業した150人の内訳

	人数	割合	備考
① 一般就労	78名	52.0%	
② 福祉的就労	17名	11.3%	就労継続支援A型、B型事業所等に入所
③ 地域での居宅	36名	24.0%	生活保護を受給しながら地域居宅
④ その他	19名	12.7%	

◆生活困窮者の受入れ実績は7名で、うち5名が一般就労しています。(就労率71.4%)
◆地域の障害者施設の施設外就労受け入れ先にもなっています。2名終了、6名訓練継続
ファイバーリサイクルセンターは、抱樸館福岡や自立相談支援事務所、その他支援機関や地域の団体とも連携しながら、生活困窮者の課題解決や就労及び地域自立に向けて寄り添った支援を進めていきます

27

2016年4月～ 子どもの貧困に対する取組み

子ども支援オフィスを福岡県4ヶ所でスタート

- ①子どもの学習支援・居場所づくり研究会を7回開催。
- ②福岡県の委託事業として子ども支援オフィス4カ所でスタート
- ③高校生の就学継続のため、訪問相談支援事業をスタート

6月1日開所式

子ども支援オフィス

すべての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現のために、子ども支援オフィスは親と子どもの両方の幸せを考えた相談支援を行っていくことを大切にします。

福岡県の事業です。安心してご相談ください。

子育てや 家族の悩み

092-938-1205

相談の窓口

① 子どもの学習支援
② 居場所づくり
③ 訪問相談支援
④ 高校生の就学継続支援

北九州市の委託で子ども食堂を実施

北九州市の委託を受けて、子どもたちが多くの人たちと触れ合い、安心してすごすことが出来る居場所づくり「子ども食堂」を実施し、食事の提供や学習指導、生活指導を行っています。 日明市民センター 毎週木曜日



食事はグリーンコープの食材で、栄養バランスや塩分摂取量をチェックしたものを提供しています。



北九州市立大学の学生さんが勉強を教えています。



地域の卓球クラブの方と卓球をしています。

地域の子どもへのフードサポート

- ①グリーンコープ生協心くおか 19ヶ所
- ②グリーンコープ生協くまもと 5ヶ所
- ③グリーンコープ生協（島根） 1ヶ所

困窮者への食料支援

- ①生活困窮者の相談支援機関 28カ所

学校支援関連の取り組み

- ①教育機関での朝食・食育支援 12校



教育機関での朝食・食育支援 12校



食料支援 生活困窮者の相談支援機関 28カ所

これまで組合員から
提供された食料は
26,550点(約9.8トン)



福岡県自立相談支援事務所(遠賀郡・鞍手郡・嘉穂郡)の保管庫

フードサポートによる「子どもの居場所支援」 25か所



2012年から 買物困難者への支援

3つのコンセプト

- ①買物に大変されている地域住民の方々へのお役立ち
- ②地域でのコミュニケーションのお役立ち
- ③コミュニケーションを通して見守り機能

搭載商品

牛肉・豚肉・鶏肉・魚・干物・
ウィンナー・野菜・くだもの・
牛乳・豆腐・厚揚げ・練り製
品・卵・乳製品・ヨーグルト・
味噌・醤油・調味料・国産小
麦のパン・お菓子・お茶・チョコ
レート・アイスクリーム・洗
剤・トイレトペーパー等
300品目以上



2017年度は
福岡県内90ヶ所で開催
週平均433人が利用
さらに県外各地へ拡がる。

全国各地の災害(震災・水害等)の支援

- ・東日本震災支援
- ・熊本震災
- ・九州北部豪雨災害
- ・西日本豪雨災害など

